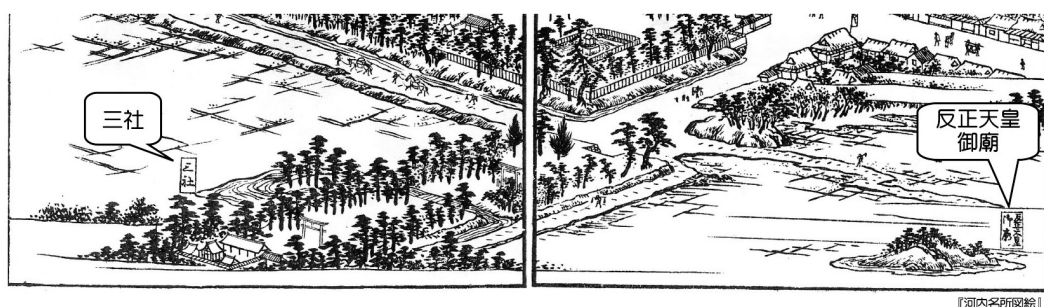


9. 河内名所図会を訪ねて その三 辛國神社



葛井寺を描いた挿絵の左下に見えるのは辛國神社です。「三社」とあるのは文字通り社が3つ並んでいるからでしょう。中央の本殿に饒速日命と天兒屋根命、向かって右の脇殿に品陀別命、左の脇殿に市杵島姫命の4柱を祀り、江戸時代は岡村の氏神社として春日社または春日大明神と呼ばれていました。

辛國神社は式内社ですが、創建の由緒は古墳時代まで遡ります。祀神の由来を辿ってみましょう。

『日本書紀』雄略13年に「餌香の長野邑を以て、物部目大連に賜ふ。」とあります。餌香長野は藤井寺市を含む地域の古代地名です。物部氏は祖神・饒速日命を祀りましたが、丁未の乱(587年)より後は物部一族の辛國氏が祭祀を引き継いだとされます。

室町時代に河内守護の畠山基国が春日大社から天兒屋根命を勧請し、社領200石を寄進しました。基国は楠木正儀追討の命を受けて河内国守護に任じられ、その後の畠山氏による河内国支配の礎を築いた室町幕府の重臣です。

明治時代に古来の名称である辛國神社に改称し、葛井寺境内の南西隅に鎮座していた長野神社の素盞鳴命を合祀しました。挿絵に2基の鳥居が見えますが、現在の二ノ鳥居は合祀に際して移設したもので、柱に長野神社と刻まれています。前回紹介した『葛井寺参詣曼荼羅』の左下に見える鳥居は、長野神社あるいは辛國神社どちらの鳥居でしょうか。



昭和62年に竣工した現社殿は、拝殿-幣殿-祝詞殿-本殿と連なる複合社殿で、本殿は物部系の神社に多い三間社流造を採用しています。本殿は内部を3つに分けていて、中央の主殿に饒速日命・天兒屋根命・素盞鳴命の3柱、向かって右の相殿に品陀別命、左の相殿に市杵島姫命の合わせて5柱を祀っています。

春日天満宮の社殿は春日造りの旧本殿を移設したものです。当初は権殿としていましたが、勘違いして手を合わせる参拝者が後を絶ちませんでした。藤井寺市の西地区にも学問の神さまがほしいという地元の声があったので、平成5年に北野天満宮から菅原道真公を勧請しました。

奥行き100間(180m)の参道を持つ鎮守の森は、大阪を代表するみどりの景観として「大阪みどりの百選」に選ばれています。挿絵に描かれた鎮守の森は松林ですが、現在は椿などの広葉樹も育ち、新緑の頃には緑の濃淡を楽しむことができます。かしわ手の音がよく響くのは、境内が木立に包まれているからでしょう。



なお、挿絵の右下に「反正天皇御廟」が見えますが、解説は「仲哀天皇陵 葛井寺の南。岡村の管内にあり。」と食い違っています。なぜでしょう。

17世紀後半の『河内鑑名所記』は、藤井寺の挿絵に剛琳寺(葛井寺)と反正天皇陵を描いています。また、「反正天皇御廟 ふち井寺の南にあり <ミさんざい> と里人云 岡村領内と也」と解説しているので、これが元ネタでしょう。しかし、『河内名所図会』の編者・秋山藩島は『前王廟陵記』や『日本書紀』を考証して、この陵を仲哀天皇陵としました。挿絵を描いた丹羽桃溪は『河内鑑名所記』を鵜呑みにしたのかも知れません。(2019年7月 古川)

(参照) 秋山藩島編、丹羽桃溪画、堀口康生校訂『河内名所圖會』(1975年 柳原書店)

坂本太郎、他 校注『日本書紀』(1994年 岩波文庫第3巻)

三田浄久『河内鑑名所記』(1980年 上方芸文叢刊刊行会)